

語と意味 (3)

——日本語とフランス語の意味上の対応関係——

柿 山 隆

1. 本誌 23 号, 26 号で「いっばいだ」「いつも」「今の」「(～の) 上から」「演奏する」「教える」「おもしろい」「終る」「替える」「変える」「帰る」「貸す」「借りる」「元来」の *champ sémantique* (意味場), *contenu sémantique* (意味内容) の分析を試みそれがフランス語ではどのような言葉や表現に対応するか探ってみた。

今回は「聞く」「気持の(が)いい」「教育」「～くらい(ぐらい)」の各語について例文からそれが表わす概念を分析し、同じ概念がフランス語ではどのような言葉・表現によって表わされているか、*syntagme* (連辞) 構造も考慮に入れながら検討することにする。

2. 1 「聞く」

entendre/écouter/apprendre/demander

日本語の辞書¹⁾によれば「聞く」の *champ sémantique* (意味場) はかなり広い。

先ず「彼が日本語を話すのを聞いているとまるで日本人のようだ²⁾。」の「聞く」は音や声を耳で知覚することで「聞く」主体の態度はどちらかと言えば消極的である。この意味でフランス語の《*As-tu déjà entendu parler le Président de la République malgache à la radio?*》(マダガスカル共和国の大統領がラジオで話すのを聞いたことがあるかい?³⁾)の *entendre* と概念的に対応するだろう。

2 柿山 隆

次に「教室で先生の話しを聞く」⁴⁾。ここでの「聞く」は音や声を耳で知覚すると言う外的現象は「彼が日本語を話すのを聞いていると……」の「聞く」と同じであるが、前者の「聞く」は「聞く」主体が消極的であるのに対して後者の「聞く」は「聞く」主体が積極的で耳で知覚することに注意を傾けている概念を付加している。積極的に耳を傾けることはフランス語では《Ecoutez le bulletin d'informations à la radio.》(ラジオでニュースを聞こう⁵⁾)の écouter で表現している。日本語の場合聴覚器官で音声を把握することは「聞く」主体の注意の有無にかかわらず、いずれの場合も「聞く」で表現し「聞く」主体の積極的態度的概念を付加する場合は「注意して聞く」などと言うように補足的語句を付け加えて表現する。他方フランス語においては「聞く」主体の心理的姿勢の違いによって entendre (消極的)/écouter (積極的) の対立がある。従って日本語の例文、「彼が日本語を話すのを聞いているとまるで日本人のようだ。」はフランス語では En l'entendant parler le japonais, on dirait qu'il est un vrai Japonais.、「教室で先生の話しを聞く。」は En classe, on écoute ce que dit le professeur. と表現できるだろう。

更に、「あの子は親の言いつけをよく聞く。」⁶⁾ の「聞く」がある。ここでの「聞く」は概念的には「聞き入れる」「受諾する」「容れる」等と同じ内容を指し、他人の意見、注意、頼みごと、要求などを受け入れてその通りにすることを意味している。フランス語では《Paul n'écoute jamais les conseils qu'on lui donne.》(ポールは人の忠告を少しも聞かない。)⁷⁾《Ecoute un peu ton père!》(少しはお父さんの言うことを聞きなさい!)⁸⁾ の écouter がこの意味での「聞く」に対応する語で obéir à (～に従う) 程には強い意味は持たないがそれに近いニュアンスをもっている。それ故、「あの子は親の言いつけをよく聞く。」は Cet enfant écoute bien ses parents. 或いは「従う」ニュアンスを強調したければ、Cet enfant obéit bien à ses parents. とフランス語に翻訳できるだろう。

「あの人が結婚したということを知った。」⁹⁾ の「聞く」はまた別の概念で

情報等を伝え聞く意味がある。フランス語では、《J' ai appris l'autre jour par hasard que vous cherchiez une nouvelle secrétaire.》(あなたが新しい秘書を探がしていることをこの間偶然聞いた¹⁰⁾) 《Les pêcheurs, qui venaient d'apprendre cette mort, le considéraient comme un mauvais présage.》(その死を聞いた漁師たちはそれを不吉な前兆だと思った¹¹⁾) の例文に見られるように情報等を伝え聞く意味での「聞く」には apprendre が対応する。又 syntaxe (統辞論) 的には apprendre は、apprendre+SN (情報等), apprendre que+ind. の構造になる。「あの人が結婚したということを知った。」も上の structure syntaxe (統辞論的構造) に当てはめて J' ai appris que cet homme s'était marié. とフランス語で表現できよう。

「先生は生徒に欠席の理由を聞いた¹²⁾。」の場合は概念的には「質問する」「尋ねる」「質す」と同じだ。相手から返答を期待して言う語である。この概念を表わすのにフランス語では interroger, questionner, demander の3つの語があるが structure syntaxique (統辞論的構造) は同じでない。interroger は《On l'interrogea sur le vol commis à la banque.》(銀行でやった盗みのことで彼は聞かれた¹³⁾) のように structure syntaxique (統辞論的構造) は interroger+SN(人) (+ sur +SN), questionner も《Tout le monde l'a questionné sur son livre.》(皆が彼に彼の本のことを聞いた¹⁴⁾) のように interroger と同じ structure syntaxique (統辞論的構造) をとり、interroger と questionner は synonyme (同義語) である。他方、demander は《Je lui ai demandé la raison de son absence.》(私は彼に欠席の理由を聞いた¹⁵⁾) のように、structure syntaxique (統辞論的構造) は demander+SN(事柄)+à+SN(人), 又は《Demande-lui quand il songe à partir.》(いつ出発しようと思っているか彼に聞きなさい¹⁶⁾) のように、demander+à+SN(人)+疑問詞(Si)~となる。先に述べたように interroger と questionner は synonyme (同義語) であるから On l'interrogea sur le vol commis à la banque. の interroger を questionner に置きかえて On le questionna sur le vol commis à la banque. としても文の意味

は同じである。同じ文を demander の structure syntaxique (統辞論的構造) にはめこむと (?)¹⁷⁾ On lui demande le vol commis à la banque. となり syntaxe (統辞論) の上から疑問だが文から commis をはずすと syntaxe (統辞論) 的には正しいものとなるが文の意味は全く違ったものになってしまう。逆に demander による文 Je lui ai demandé la raison de son absence は interroger, questionner によって書きかえて Je l'ai interrogé [questionné]¹⁸⁾ sur la raison de son absence. としても文意を変えすることもなく syntaxe (統辞論) 的にも問題はない。つまり、demander+SN(事柄)+à+SN(人) の structure syntaxique (統辞論的構造) の場合 demander の代わりに interroger, questionner によって書きかえることができるが逆は必ずしもできないと言えよう。更に、demander+SN(事柄)+à+SN(人), の structure syntaxique (統辞論的構造) においては SN(事柄) は疑問詞に代わり得るものでなければならないようだ。以上のことから「先生は生徒に欠席の理由を聞いた。」はフランス語では、Le professeur a interrogé [questionné] sur la raison de son absence. 或いは Le professeur a demandé à l'élève la raison de son absence. 更に Le professeur a demandé à l'élève pourquoi il était absent. と表現できるだろう。

口語、日常語の「聞く」の champ sémantique (意味場) の広がりには以上のようなものであるが古語、文語に属すると思われる他の champ sémantique (意味場) もある。例えば、「我が句を面白く作るよりも聞くは遙かにいたりがたし……¹⁹⁾」のようにことの是非を判断する、「……酒の香聞けば前後を忘るる²⁰⁾。」のように香等をかぎ試みる、「能い酒かあしい酒か私がきいて見ずばなりますまい程に、一つきかせて下されい²¹⁾。」のように酒などを味い試してみる、「板の厚さにきいて釘を打つ²²⁾。」のように当てて試みる等がそれだ。

2. 2 「気持の(が) いい」

agréable [sympathique, charmant]/agréable [plaisant]

日本語の辞書には「気持の(が)いい」の見出し語はない。日本語の文法によれば、名詞の「気持」、格助詞の「の」、形容詞の「いい」の3語から成っている。「頭のいい」も同様だし「才能がある」は名詞+格助詞+動詞、の形だ。このように語句全体として名詞を修飾するのにいくつかの品詞から成っている例は珍らしくない。日本語の文法では形容詞を「性質や状態を表わす品詞²³⁾」と定義している。「才能がある」は「才能がある音楽家」のように形容詞の定義に当てはまる語句ではあるがいわゆる1つの品詞ではないから形容詞ではないのである。又、「太陽はあらゆる生命の源泉である²⁴⁾。」の「あらゆる」は日本語文法によると連体詞である。他方フランス語の *adjectif* (形容詞) は《*mot que l'on joint au nom pour exprimer une manière d'être, une qualité de l'être ou de l'objet désigné par le nom……ou pour introduire ce nom dans le discours……*》²⁵⁾ とあるように日本語文法の形容詞よりもフランス語の *adjectif* の方がカバーする範囲が広い。「あらゆる」のような日本語文法による連体詞もフランス語における対応語 *tous* のように *adjectif* なのだ。日本語とフランス語の文法の違いは前者が形態論的であるのに対し後者は機能論的である感が強い、ここにも翻訳の1つの問題がある。

いずれにしても「何時会ってもあの人は明るくて気持のいい人です²⁶⁾。」「昨日の雨があがって今日は気持のいい天気だ²⁷⁾。」ここでの「気持のいい」は「気分をそう快にさせてくれる」「感じのいい」「好感のもてる」等の意味がある。客体に対して主体が懐く「快の感覚²⁸⁾」を表わしている。上の例文から見ても日本語のレベルでは「気持の(が)いい」の客体は、人/事柄、物の区別はないようである。

「快の感覚」はフランス語では、《*Nos voisins sont des gens agréables, nous sommes devenus amis.*》(隣りの人たちは気持のいい人たちで親しくなりました²⁹⁾) 《*C'était la première fois que je le rencontrais, mais il était très sympathique.*》(彼に会ったのは始めてだったがとても気持のいい人だった³⁰⁾) 《*Jean a une femme charmante, toujours gaie, pleine d'esprit.*》

(ジャンには気持のいい奥さんがいる。何時も明るく機知に富んでいる。)³¹⁾のように人に関しては agréable, sympathique, charmant で表わされている。他方、事柄・場所に関しては、《Il a un tempérament agréable.》(彼は気持のいい性格の持主だ。)³²⁾ 《Je trouve cet endroit très agréable.》(ここはとても気持のいいところだと思います。)³³⁾ 《Ce petit appartement est très plaisant.》(この小さなマンションは大変気持がいい。)³⁴⁾のように、agréable, plaisant で表わされている。但し、人に関しての agréable, sympathique, charmant, 事柄・場所に関しての agréable, plaisant も niveau de langue (言語水準) の点からは多少異なり、人に関しては agréable < sympathique < charmant の順で強意の度が増し、事柄・場所については agréable よりも plaisant の方があらたまった語と言えるだろう³⁵⁾。従って、「何時会ってもあの人は明るくて気持のいい人です。』³⁶⁾は Chague fois que je le vois, il est toujours gai et agréable [sympathique, charmant]。 「昨日の雨があがって今日は気持のいい天気だ。」は La pluie depuis hier ayant cessé, le temps est agréable [plaisant] aujourd'hui. とフランス語に翻訳できるだろう。

2. 3 「教育」

éducation/enseignement [instruction]/instruction [culture, connaissances]/formation

「教育」という語は何かを教えること或いは何かを学ぶことを指しているがその語の内容や使い方によって champ sémantique (意味場) にかなりの広がりがあるようだ。先ず「子供の教育は学校にばかり委せておいてはいけません。家庭でもしっかり教育することが大切です。」における「教育」は知的と言うよりはむしろ道徳的形成の意味合いが強いように思われる。そして特に青少年を対象とするものであろう。この意味での「教育」はフランス語の例文、《Paul a reçu une éducation très dure, ça a eu un mauvais effect sur son caractère.》(ポールは大変厳しい教育を受けたがそれ

はかれの性格に悪い影響を与えた。)³⁷⁾に見られる éducation と同じ概念を示すものだろう。つまり、躰、道徳的形成の意味に於ける「教育」はフランス語では éducation で表現すると言える。従って、「子供の教育は学校にばかり委せておいてはいけません。家庭でもしっかり教育することが大切です。」はフランス語では、Pour l'éducation de l'enfant, on ne doit pas compter à part entière sur l'école, mais il faut le bien éduquer aussi à la famille. と言えるだろう。

「教育の程度が低いとどうしても文化一般が低くなってしまいます。」³⁸⁾「親は子供に最高の教育を受けさせたいと一生懸命です。」³⁹⁾に見られる「教育」は上述の道徳的形成の意味ではなく、知的形成のことであり、学問的知識を授けたり受けたりすることを意味する。この意味ではフランス語の例文、《L'enseignement des mathématiques modernes commence dès les petites classes.》(現代数学の教育は下級学年から始められる。)⁴⁰⁾《…… Ce qui permet aux étudiants de recevoir un enseignement adapté aux exigences des différents milieux professionnels et aux réalités économiques.》(それによって学生は種々な職業部門の要請と経済の実態に適応した教育を受けられる。)⁴¹⁾《L'instruction reçue au collège ne suffit pas pour réussir, faut-il encore avoir du caractère.》(成功するためには学校で受けた教育だけでは充分ではない。更に気骨が必要だ。)⁴²⁾に見られるようにフランス語では enseignement, instruction が用いられている。つまり知的形成を意味する「教育」のフランス語の対応語は enseignement, instruction ということになるだろう。従って、「教育の程度が低いとどうしても文化一般が低くなってしまいます。」は、Tant que l'enseignement [instruction] reste à un niveau bas, cela empêche la culture générale de progresser. 「親は子供に最高の教育を受けさせたいと一生懸命です。」は Les parents tiennent absolument à faire recevoir à leurs enfants la meilleure instruction possible [le meilleur enseignement possible]. のようにそれぞれフランス語に翻訳できるだろう。

「私は教育がないから難しいことは分かりません。」⁴³⁾に見られる「教育」は知的形成を受けてそれを身につけたものと考えらるだろう。その意味では「教養」と同義語である。フランス語では、《Si le candidat n'a pas d'instruction, on ne peut pas l'engager.》(応募者に教育がないなら採用は無理だ。)⁴⁴⁾《Pour ce poste, on demande une bonne culture générale.》(このポストには勝れた一般教養が求められる。)⁴⁵⁾《C'est agréable de discuter avec Jean, il a des connaissances dans tous les domaines.》(ジャンと話しをすると楽しい。あらゆる分野の教育がある。)⁴⁶⁾の例文に見られるように「教養」と同義語の「教育」はフランス語では、instruction, culture, connaissances で表わすことができるだろう。従って、「私は教育がないから難しいことは分かりません。」は Je n'ai pas d'instruction [culture, connaissances] ; je ne comprends donc pas ce qui est complexe. とフランス語に訳すことができるだろう。

更に、「新しくこの会社に入ったものは3ヵ月の教育を受けた後、仕事につきます。」⁴⁷⁾の「教育」は職業的専門的知識なり技術なりの養成、訓練、研修等を意味している。フランス語においては、《Cette entreprise a institué des stages pour la formation de son personnel.》(この会社は社員教育のために研修制度をつくった。)⁴⁸⁾《Pierre a reçu une bonne formation professionnelle.》(ピエールはいい職業教育を受けた。)⁴⁹⁾のように formation を用いて職業的専門的養成を表わしている。そう言うわけで、「この会社に入ったものは3ヵ月の教育を受けた後、仕事につきます。」はフランス語では Les nouveaux employés de cette société se mettent au travail après une formation de trois mois. と言えるだろう。

学校制度の枠組の中で初等教育、中等教育、高等教育と言った教育レベルを指す「～教育」は、《Il faut cependant attendre 1850 et la loi Falloux tout en établissant principalement la liberté d'enseignement aux niveaux primaire et secondaire, et en avantageant l'enseignement confessionnel, pour que l'enseignement secondaire se laïcise.》(中等教育の脱宗教は1850

年のファル法を待たねばならなかった。その法律は主として初等、中等教育における教育の自由を確立すると共に教会関係による教育を優遇するものだった。)49) からも伺えるように enseignement がその対応語である。このように初等教育, 中等教育, 高等教育はフランス語ではそれぞれ l'enseignement primaire50), l'enseignement secondaire51) (l'enseignement du second degré52)), l'enseignement supérieur53) という。

又、「教育」を語基とする「～教育」の合成語, 例えば, 「宗教教育」「道徳教育」「音楽教育」「芸術教育」等の「～教育」のフランス語での対応語は, 《On conseille de commencer l'éducation religieuse très tôt.》(非常に早いうちから宗教教育を始めることが勧められている。)54) 《Je ne peux pas donner ce cours. Je n'ai aucune formation artistique.》(この論議をすることはできません。私は芸術教育を受けたことがないので。)55) のように éducation 又は formation が用いられているが, 対象が主として青少年で道徳的, 知的ニュアンスを含む場合は éducation で, 職業的, 専門的ニュアンスを含む場合には formation であるようだ。

2. 4 「～くらい(ぐらい)」

à peu près [environ, autour de, dans les, de l'ordre de, approximativement]/à peu près aussi que/autant (de～) que～

si [tellement] ～ que ～ il n'y a

personne
rien

 de

plus
moins

 ～ que ～

personne
rien

 n'est

plus
moins

 ～ que ～

「～くらい(ぐらい)」は日本語の文法によれば副助詞と呼ばれ, 「体言または準体言(連体形・連用形)および一部の副詞の下につき, それらに更に何らかの意味を添える働きをする。」56) と定義されている。「くらい(ぐらい)」について言えば, 「アンデスの山々はみんな 6,000メートルぐらいの高さです。」57) のように大体の分量・程度概念を表わしている。日本語では, 「この本を 10 日ばかりお借りしたいと思います。」58) 「かぜをひいて

10日ほど学校を休みました。』⁶⁰⁾ のように同一の syntagme(連辞)構造をもつ synonyme (同義語) としては「ばかり」「ほど」があり、「この機械はおよそ 200万するそうだ。』⁶⁰⁾ 「円の周囲はほぼ 3倍である。』⁶¹⁾ 「会場にはやく 500人の人が集まった。』⁶²⁾ に見られるように syntagme (連辞) 構造は異なるが同じ概念を表わす類語には「およそ」「ほぼ」「やく」などがある。他方フランス語では《Il y a à peu près huit jours que je ne l'ai pas vu.》(彼に会わなくなってから1週間ぐらいだ。)⁶³⁾ 《Dans cette région, il pleut environ soixante-dix jours par an.》(この地方では年に70日ぐらい雨が降る。)⁶⁴⁾ 《Je ne sais pas exactement son âge, il doit avoir autour de quarante ans.》(彼の正確な年は知らないが40才ぐらいだろう。)⁶⁵⁾ 《Ce livre coûte dans les vingt francs.》(この本は20フランぐらいする。)⁶⁶⁾ 《Son déficit budgétaire de l'ordre de 120 milliards de francs, n'est-il pas financé à concurrence de plus des deux tiers par émission monétaire pure et simple.》(その1兆200ぐらいの予算の赤字は3分の2以上にも及ぶ単なる紙幣の発行によって埋められるのだろうか?)⁶⁷⁾ 《La réunion durera approximativement deux heures.》(会合は2時間ぐらいかかるだろう。)⁶⁸⁾ に於けるように大体の分量・程度の概念を示す語句は数量の語句を伴う場合は à peu près, environ, autour de, dans les, de l'ordre de, approximativement である。

従って、《アンデスの山々はみんな6,000メートルぐらいの高さです。》は Les montagnes des Andes ont toutes à peu près [environ, autour de, dans les, de l'ordre de, approximativement] six mille mètres de haut. と表現できるだろう。

同じ概念を表わす日本語とフランス語の structure syntaxique (統辞論的構造) を比較してみると、日本語では、数量の語句+くらい (ぐらい) [ばかり, ほど], と, およそ [ほぼ, やく]+数量の語句, の二通りがある。フランス語では autour de, dans les, de l'ordre de は, autour de [dans les, de l'ordre de]+数量の語句, の構造であるが à peu près, environ,

approximativement に関しては、à peu près [environ, approximativement] + 数量の語句、数量の語句 + à peu près [environ, approximativement (?)] の二つの構造が *syntaxe* (統辞論) 上可能なように思われる。ある程度のニュアンスを含むが、数量の語句を伴わない場合は、《Il a à peu près ton âge.》(彼は君ぐらいの年令だ。)⁶⁹⁾ のように à peu près が用いられている。日本語「くらい(ぐらい)」を使っては翻訳できないが、《Entre ces deux reliefs, approximativement parallèles, se développe au centre, en forme de plaine une sorte de (fond de bateau) très ouvert, gorgé de riches terres d'érosion et de remplissage.》(ほぼ平行した二つの台地の間の中央部には「船底」を思わせる平原が発達している。そこは大へん開けていて侵蝕と堆積による豊かな地だ。)⁷⁰⁾ の approximativement も類似した概念を示すものだろう。

「くらい(ぐらい)」によって導入される他の概念は例えば、「それはりんごぐらいの大きさですか。」⁷¹⁾ 「私もあなたぐらい日本語ができるといいのですが。」⁷²⁾ の「ぐらい」は他と比較して大体それと同じ程度であることを表わす。同程度の比較の概念はフランス語では、《Le complice est souvent aussi coupable que le criminel.》(多くの場合共犯者は犯罪者と同じくらい罪がある。)⁷³⁾ 《Il se couche aussi tard que ses parents.》(かれは両親と同じくらい遅く寝る。)⁷⁴⁾ 《Est-ce qu'il étudie autant que sa sœur?》(かれも妹と同じくらい勉強していますか。)⁷⁵⁾ 《Jean-Luc a autant de défants que de qualités》(ジャン・リュックには長所短所が同じくらいある。)⁷⁶⁾ に見られるように aussi~que~ と autant (de~) que~、との二つの構造の区別がある。aussi~que~ の場合は *adverbe* (副詞)・*adjectif* (形容詞) を aussi と que の間に置く。autant (de~) que~ の構造は *verbe* (動詞) 又は *nom* (名詞) が絡む場合で、*verbe* (動詞) が絡めば、*verbe+autant que~*、*nom* (名詞) が絡めば、autant de+名詞+que~、のそれぞれの構造となる。上述の二つの日本語の例文に以上の *structure syntaxique* (連辞構造) を当てはめてフランス語に翻訳すると、「それはりんごぐらいの大

きさですか。」は Est-ce aussi grand qu'une pomme? 「私もあなたぐらい日本語ができるといいのですが。」は Si je parlais le japonais aussi bien que vous. と表現できるだろう。

又一方、「富士山はこの山とは較べものにならないくらい美しい。」⁷⁷⁾の「くらい」も程度・比較の概念を伴っているがそれに加えて比較の結果も導き出す機能もある。このような概念はフランス語においては、《Il est si faible qu'il ne pourrait voyager, s'il le fallait.》(必要があっても旅行できないくらい彼は弱い。)⁷⁸⁾ 《Il est tellement préoccupé de ses affaires qu'il ne saurait penser à autre chose.》(かれは他のことは考えることができないくらい仕事に没頭している。)⁷⁹⁾に見られるように、si~que~, tellement~que~等の structure syntaxique (連辞構造) によって表現されている。「富士山はこの山とは較べものにならないくらい美しい。」も上の構造に則って Le mont Fuji est si [tellement] beau que l'on ne peut le comparer avec cette montagne. とフランス語でも表現できるだろう。

上の「くらい(ぐらい)」とは多少使い方は異にするがその後「~な人(もの)はない」と続ける「~くらい(ぐらい)~な人(もの)はない」の表現がある。「田中さんぐらい親切な人はあまりいないでしょう。」⁸⁰⁾がその例文だが、このような概念はフランス語では、《Il n'y a personne de mieux qu'elle pour faire ce travail.》(彼女ぐらいこの仕事に適した人はいない。)⁸¹⁾ 《Il n'y a rien de moins amusant que cette comédie.》(その芝居ぐらいつまらないものはない。)⁸²⁾の例文にあるように、il n'y a

<u>personne</u>		de		<u>plus</u>		~que~
<u>rien</u>				<u>moins</u>		

, の structure syntaxique (統辞構造) がある。「田中さんぐらい親切な人はあまりいないでしょう。」も上の構造に当てはめると、Il n'y aurait personne de plus gentil que monsieur Tanaka. とフランス語に翻訳できるだろう。例文は見つけられなかったが同じ概念を表わすのに、

<u>personne</u>		n'est plus		~que~
<u>rien</u>				

, の構造も理論上は可能である。それ故、Il n'y aurait personne de plus gentil que monsieur Tanaka の代

りに Personne n'est plus gentil que monsieur Tanaka. としても *syntaxe* (統辞論) 上不都合はないだろう。

最後に最低限の概念を示す「くらい(ぐらい)」がある。通常は「いくらお金がないといっても 100円ぐらいいは持っているでしょう。」⁸³⁾のように後に「は」を付加する機会が多いようだ。フランス語ではこの概念は、《*Je suis pressé, maman.—Prends au moins une tranche de pain et du café.*》(お母さんぼく急いでいるんだよ。—でもパン1枚とコーヒーぐらいいはお腹に入れて行きなさい。)⁸⁴⁾のように au moins で表わすことができる。従って、「いくらお金がないといっても100円ぐらいいは持っているだろう。」も *Quelque pauvre qu'il soit, il doit avoir au moins cent yen.* と翻訳できるだろう。

3. 「聞く」の主な *champ sémantique* (意味場) としては、①音・声を耳で知覚する、②耳で知覚したことの内容を知る(伝聞も含む)、③他人の言葉に従う、④尋ねる、が考えられる。①音・声を耳で知覚する、については日本語のレベルでは知覚する主体の姿勢による用語の区別はないがフランス語のレベルでは知覚する主体の姿勢によって異った語を使う。「聞く」のそれぞれの *champ sémantique* (意味場) とフランス語との対応関係を示せば、①「聞く」(音・声を耳で知覚する)—a) entendre (知覚の主体が消極的)、b) écouter (知覚の主体が積極的)、②「聞く」(耳で知覚したことの内容を知る)—apprendre、③「聞く」(他人の言葉に従う)—écouter、④「聞く」(尋ねる)—demander ということになる。「尋ねる」意味での「聞く」のフランス語における概念上の対応語は interroger, questionner, demander があるが interroger [questionner]/demander の *structure syntaxique* (統辞論的構造) の違いがある。

「気持の(が)いい」は日本語では3つの品詞の語からなる合成語 (*mot composé*) であり、最後の部分「いい」だけが日本語の文法による形容詞であるが意味的 (*sémantique*) に考えれば全体として一語的に形容詞の機

能を果していることは明らかで「形容詞的語句」とでも言うべきものだろう。いずれにしてもフランス語文法の観点からすれば、「気持の(が)いい」の対応語は adjectif (形容詞) 1語で表現できる。日本語では「気持の(が)いい」は人についても、事柄・場所についても等しく用いられる。フランス語では、agréable, sympathique, charmant (人に関して)/agréable, plaisant (事柄・場所に関して), の機能的な違いが見られ agréable だけはいずれの場合も使える。Niveau de langue (言語水準) の点では、人に関しては agréable, sympathique, charmant の順で強意の度が増し、事柄・場所に関しては agréable に比して plaisant の方があらたまった表現である。

日本語「教育」はかなり広い champ sémantique (意味場) をもっている。フランス語ではそれぞれの意味に応じて言葉の使い分けが見られる。このようにして、道徳的「教育」は éducation, 知的「教育」は、enseignement, instruction, 「教養」と同義語の「教育」は instruction, culture, connaissances, 職業的専門的養成の意味での「教育」は formation で表現される。学校教育制度のレベルを示す「～教育」には enseignement が対応する。「教育」を語基とする「～教育」の合成語は道徳的知的ニュアンスの場合には éducation, 職業的専門的養成のニュアンスの場合は formation が用いられるようだ。

「～くらい(ぐらい)」には先ず大体の数量を表わす概念がある。日本語のレベルでは大体の分量を表わす語句にはその他に「ばかり」「ほど」「およそ」「ほぼ」「やく」があるが structure syntaxique (統辞論的構造) の点から、数量の語句+くらい(ぐらい) [ばかり, ほど], と, およそ [ほぼ, やく]+数量の語句, の二通りに区別される。他方フランス語では同じ概念を表わすのに, à peu près, environ, autour de, dans les, de l'ordre de, approximativement, の語句があるが structure syntaxique (統辞論構造) は à peu près [environ, autour de, dans les, de l'ordre de, approximativement]+数量の語句, の他に, 数量の語句+à peu près [environ, appro-

ximativement (?)] も可能だろう。

又、「くらい(ぐらい)」は比較の概念も表わす。フランス語ではこの概念は aussi~que~, autant (de+名詞) que~ の二つの構造で表わされる。前者は adjectif (形容詞), adverbe (副詞) が絡む場合で, 後者は verbe (動詞), nom (名詞) が絡む場合である。

更に、「くらい(ぐらい)」は比較の結果の概念を導く語句の役割を果たす。フランス語での類似の structure syntaxique (統辞構造) には si [tellement]~que~, がある。

「くらい(ぐらい)」は最上級の概念を表わす語句, 「~くらい(ぐらい)~な人(もの)はない」の一部分としても用いられる。この概念はフランス語では

$$\text{il n'y a} \left| \begin{array}{c} \text{personne} \\ \text{rien} \end{array} \right| \text{de} \left| \begin{array}{c} \text{plus} \\ \text{rien} \end{array} \right| \sim \text{que} \sim$$

又は,

$$\left| \begin{array}{c} \text{personne} \\ \text{rien} \end{array} \right| \text{n'est plus} \sim \text{que} \sim, \text{ の構造で表現される。}$$

最後に、「くらい(ぐらい)」は最低限の概念を表わし, 多くは「くらいは(ぐらいは)」の語句形式の一部分である。「くらい(ぐらい)」は概念的には「少くとも」と同じであるが structure syntaxique (統辞論的構造) は異なる。フランス語では同じ概念を表わすのに au moins の語句がある。

注

- 1) 国語大辞典, 広辞苑, 新明解国語辞典, 基本語用例辞典
- 2) 基本語用例辞典
- 3) 現代フランス語法辞典
- 4) 基本語用例辞典
- 5) DFC (Dictionnaire du français contemporain)
- 6) 基本語用例辞典
- 7) Niveau 2 (Dictionnaire du français langue étrangère, niveau 2)
- 8) Ibid.
- 9) 基本語用例辞典
- 10) 現代フランス類語辞典
- 11) Queffélec, Un Recteur de l'île de Sein, cité par trésor de la langue française

- 16 柿山 隆
- 12) 基本語用例辞典
- 13) DFC (Dictionnaire du français contemporain)
- 14) Niveau 2
- 15) DFC
- 16) 現代フランス語法辞典
- 17) (?) は文が *syntaxe* (総辞論) の点から疑問であることを示す。
- 18) [] で囲込んだ語は前出の語と *synonyme* (同義語) であることを示す
- 19) 国語大辞典 20) Ibid. 21) Ibid. 22) Ibid.
- 23) 簡明国語文法 24) Ibid.
- 25) GLLF (Grand Larousse de la langue française)
- 26) 基本語用例辞典 27) Ibid.
- 28) ことばの意味 3
- 29) Niveau 2
- 30) 現代フランス類語辞典
- 31) Niveau 2
- 32) 現代フランス類語辞典 33) Ibid.
- 34) Dictionnaire du fon français
- 35) Niveau 2 参照
- 36) 基本語用例辞典
- 37) Niveau 2
- 38) 基本語用例辞典 39) Ibid.
- 40) Niveau 2
- 41) Guide de la vie pratique p. 770
- 42) Niveau 2
- 43) 基本語用例辞典
- 44) 現代フランス類語辞典
- 45) Niveau 2 46) Ibid.
- 47) 基本語用例辞典
- 48) Logos
- 49) Niveau 2 49) Guide de la vie pratique, p. 719
- 50) Pluridictionnaire.
- 51) Guide de la vie pratique
- 52) Pluridictionnaire 53) Ibid.
- 54) 現代フランス類語辞典 55) Ibid.
- 56) 日本文法大辞典
- 57) 基本語用例辞典 58) Ibid. 59) Ibid. 60) Ibid.

- 61) 類語新辞典
 62) 基本語用例辞典
 63) DFC 64) Ibid.
 65) Niveau 2
 66) DFC
 67) le Monde du 17 au 23 mars 1983
 68) Grand Larousse
 69) 現代フランス語法辞典
 70) Brunhes, La Géogr. hum. 1942, p. 258, cité par le Trésor.
 71) 基本語用例辞典 72) Ibid.
 73) logos
 74) 現代フランス語法辞典 75) Ibid. 76) Ibid.
 77) 基本語用例辞典
 78) Dictionnaire du bon français
 79) Encyclopédie de bon français
 80) 基本語用例辞典
 81) 現代フランス語法辞典 82) Ibid.
 83) 基本語用例辞典
 84) 現代フランス語法辞典

参考文献

- Klincksiech, Trésor de la langue française
- Larousse, Grand Larousse
- Le Robert
- J. Girodet, Logos, Bordas
- J. Girodet, Dictionnaire du bon français, Bordas
- Larousse, Dictionnaire du français contemporain
- Larousse, Dictionnaire du français, langue étrangère, Niveau 2
- Dupré Encyclopédie du bon français, Editions de Trévise
- Larousse, Guide de la vie pratique
- Le Monde
- 伊吹武彦他, 仏和大辞典, 白水社
- P. リーチ, C. ロベルジュ他, 現代フランス語法辞典, 大修館書店
- P. リーチ, C. ロベルジュ他, 現代フランス類語辞典, 大修館書店
- 小学館, 日本国語大辞典
- 新村出, 広辞苑, 岩波書店

18 柿山 隆

- 金田一京助他，新明解国語辞典，三省堂
- 松村明，日本文法大辞典，明治書院
- 日栄社，簡明国語文法
- 大野晋，浜西正人，類語新辞典，角川書店
- 文化庁，基本語用例辞典